

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

# 京丹波

No.50

2009年  
12月15日発行

寺尾町長が  
初登庁



特集

寺尾町長に  
まちづくりインタビュー



特集

寺尾町長にまちづくりインタビュー

## 町長が思い描く 京丹波町のまちづくり

十一月十五日執行の京丹波町長選挙で当選し、町政を担うことになった寺尾豊爾町長。寺尾町長に、今後のまちづくり方針などをインタビューしました。



今月の表紙

11月20日、京丹波町長選挙(11月15日執行)で当選した寺尾豊爾町長が、町民や議員、職員らに拍手で迎えられる中、京丹波町役場に初登庁。寺尾町長は「今後4年間、みなさんと手を携えて町政運営に励んでいきます」と力強くあいさつを述べました。

### 広報 京丹波 No.50 CONTENTS

- 2 **特集** 寺尾町長にまちづくりインタビュー  
**町長が思い描く  
京丹波町のまちづくり**
- 6 町長選挙・町議会議員一般選挙結果  
新町長、16人の新議員決まる
- 8 Dr's Message いざいざ健康術
- 9 **フラッシュ** TOWN NEWS 2009  
京都府教育委員会から表彰状を贈呈  
—京都府社会教育委員連絡協議会理事などで  
貢献した白樫さんに表彰状を授与  
京丹波町婦人会が全種目で入賞し総合優勝  
—京都女性の健康フェスティバル  
夢と希望を持ち続けることが大切  
—京丹波町人権講演会  
多くの人々がふれあう場  
—わちふれあい祭り  
火災の怖さをポスターで表現  
—防火ポスターコンクール  
子どもたちが描くあっぱれたんぼの風景  
—あっぱれたんぼ写生コンテスト  
農業用道路やほ場整備など  
事業完了に向けて推進中  
—南丹区域農用地総合整備事業の事業評価を実施  
チームで気持ちをひとつに  
—10人11脚大会  
地域で取り組む火災予防  
—質美小の児童らが高齢者世帯に防火菊鉢を配布  
町政運営にご尽力いただき  
ありがとうございました  
—松原前町長と上田前副町長が退任  
民俗芸能の祭典に小畑万歳保存会が出演  
—近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会  
地域文化と触れ合う機会  
—京丹波町文化祭  
2,700人のランナーが力走  
—2009京都丹波ロードレース

町民のみなさんを主体とした「やさしさとぬくもりのあるまちづくり」を目指して

町長就任にあたり、まちづくりの理念をお聞かせください。

町長 町民のみなさんを主体とした「やさしさとぬくもりのあるまちづくり」を進めていきたいと考えています。

まちづくりの基本姿勢をお聞かせください。

町長 町民のみなさんとふれあう機会を大切に、多くの方からの意見や思いを聞きながら、住んでいる人のためのまちづくりを目指します。このことを基本に、町外の

大きな催しよりも、町内の行事になるべく出席するように心がけ、みなさんとのふれあいを大切にしていきたいです。

また、京丹波を訪れる人は、町内に縁やゆかりのある人が多くあります。それは、ふるさとを求めていることであり、町民のみなさんが住みやすいまちづくりを進めれば、結果的に訪れる人々に喜んでもらえる、まちの活性化につながると考えます。

行政運営については、町外の方を喜ばせるように考えるのではなく、町民のみなさんが喜ぶもの、楽しめるもの、便利なものを第一に考え、結果として町外の人に役立つ形につなげていきたいと考えています。

子どもや孫、

将来の京丹波町のことを

考えた施策を

町長が考えるまちづくりの課題をお聞かせください。

町長 課題としては、わたしが進めるまちづくりは道路や施設整備などのようにすぐに形が見えるものではなく、子どもや孫のことを考えた長期間を見据えたもので理解がされにくいことだと思います。これから町民のみなさんにいねいに説明し、何度も話し合いを重ねるように心がけていきます。



寺尾町長が選挙公約で掲げられた「安心」「活力」「愛」のあるまちづくり。それぞれの項目についてインタビューしました。

「安心」のある

まちづくりについて

—住民の健康を守る「医療」について、京丹波病院と和知診療所のあり方をどのようにお考えですか。

町長 京丹波病院と和知診療所は、町立医療施設として連携を密にしています。また、和知診療所については、常勤医師

町長 京丹波町は農林業が主体とされていますが、淡水漁業も含めた農林水産業として考えることが大切であり、行政としてもさまざまな形での支援を考えていきます。そして、町で支援できない部分は、府や国に要望していくように考えています。

また、食の安全面などから地産地消が消費者から求められています。わたしの理念は「自給自足的な地産地消」です。それは、売るための農作物を作るのではなく、自分が食べるために無農薬で栽培した安心安全な物の中から余った物をおすそわけするといったやさしい気持ちが大切であり、そのことが地域の人たちが丹精込めて作った京丹波町産の農産物をブランド化するにつながると思っています。そして、大きな市場で売るのではなく、町内全体を市場としていくことが、本当の意味での地産地消につながると考えています。林業では、地球温暖化防止の観点から、木質ペレットの産業化を国などに要望していきたいと考えています。農林水産業が活発になれば、商工業との連携を図り、産業全体が活性化するように考えていきます。

—交通網の整備についてはどのようにお考えですか。

町長 現在進めている道路整備は、路線ごとに考えられているために、町内の人が町外へ出て行くための形となっております。

の確保に取り組み、合併前の機能に戻すことで、町民のみなさんの不安解消と安心の確保につなげたいと考えています。

—住民生活に直結する「町営バス」について、より利用しやすい形とするための考え方は。

町長 全体的なダイヤ改正も必要だと思いますが、町民のみなさんから多く聞くのは土曜日運行の実施です。「土曜日のクラ

を呼び込むための整備ができていないと思います。路線ごとで考えるのではなく、町内全域で道路網整備を考え、人を呼び込み活力を生み出すまちの活性化のための道路政策を進めていきます。

「愛」のある

まちづくりについて

—地域担当職員についてお聞かせください。町長 きめ細かな住民の要望や相談に対応するために、現在配置しているまちづくり推進担当職員を中心に進めていくように考えています。

—住民の目線に立った行政運営について、町長が大切に思うことをお聞かせください。

町長 町民のみなさんは、町長が身近な存在であることを望んでいます。町民のみなさんの期待に応えられるよう、できるだけ現場に向き、そしてわたし自身の思いや考えなどを伝えることに誠心誠意努めていきます。

—教育振興策についてお聞かせください。

町長 町立中学校を卒業した子どもたちが須知高校に入学し、そして大学へ進学することができれば、町内の教育環境はもっとよくなると思います。須知高校では現

ブ活動の送迎に困っている「なんとか土曜日の運行だけでも考えてほしい」との要望を受けていますので、関係機関との調整や予算を勘案しながら土曜日運行を考えていきます。

—地域防災などについてはどのようにお考えですか。

町長 新たに地域自主防災組織などを作るのではなく、現在ある消防団や交通安全協会、防犯推進協議会などの機能強化を図るように考えています。

また、防災マップはありますが、いざ災害が発生すると、地域内居住者がわからず不安確認ができない可能性があります。個人情報保護の関係もありますが、そのような事態を防ぐためにも、行政の責任として地域内居住者の名簿作成を考えていきます。

—中学校の完全給食についてお聞かせください。

町長 多くの方から要望をいただいていますし、食育の観点からも今後二年を目途に実施をしたいと考えています。

「活力」のある

まちづくりについて

—産業振興についてはどのようにお考えですか。

在、社会に出るためのカリキュラムに力を入れてるので、今後は進学率向上を目指した対策についても京都府に要望していくように考えています。

その他

—本庁と支所機能のあり方についてはどのようにお考えですか。

町長 町政運営を行う中で、町民のみなさんや職員の意見を聞きながら、支所の権限のあり方などについて考えていきます。

—情報の一元化を目指したケーブルテレビ拡張整備事業についてお聞かせください。

町長 これまで進めてきた事業を引き継ぎ、平成二十三年四月の全町開局を目指して着実に事業を推進していきます。

—まちづくりを進めるにあたり、町民のみなさんにお願したいことはありますか。

町長 お願いではありませんが、町長になつたからといって構えずに、気楽に声をかけてください。そして、会議などにも呼んでいただきたいと思っています。京丹波町発展のために力を尽くす所存ですので、町民のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。



# 新議員の顔ぶれ

(50音順。敬称略。氏名、年齢、所属、新旧、住所の順)



梅原 好範(50)  
無所属、新  
(市場)



岩田 恵一(56)  
無所属、新  
(質美)



西山 和樹(72)  
無所属、現  
(水原)



篠塚 信太郎(62)  
公明党、現  
(実勢)



坂本 美智代(57)  
日本共産党、現  
(質美)



北尾 潤(33)  
無所属、新  
(蒲生)



小田 耕治(62)  
無所属、現  
(本庄)



東 まさ子(61)  
日本共産党、現  
(高岡)



原田 寿賀美(63)  
無所属、新  
(才原)



野口 久之(64)  
無所属、現  
(曾根)



森田 幸子(58)  
公明党、新  
(須知)



村山 良夫(68)  
無所属、新  
(安井)



松村 篤郎(67)  
無所属、新  
(下山)



横山 勲(65)  
無所属、現  
(口八田)



山田 均(61)  
日本共産党、現  
(保井谷)



山内 武夫(60)  
無所属、現  
(妙楽寺)



# 町長選挙・町議会議員一般選挙結果 新町長、 十六人の新議員決まる

任期満了に伴う京丹波町長・京丹波町議会議員一般選挙が十一月十日に告示され、町長選には寺尾豊爾氏(和)と松原茂樹氏(下)の二人が立候補。また、町議選には、定数十六に対して二十一人が立候補し、激しい選挙戦を展開されました。  
十一月十五日に行われた投・開票の結果、新町長に寺尾氏が当選し、新議員十六人が決まりました。

投票は、午前七時—午後八時に町内二十五投票所で二斉に実施。当日の有権者数は二四、〇〇六人(男性六、五九二人、女性七、四一四人)で、投票者数と投票率は、町長選が二、〇四八人の七八・八八%で前回(平成十七年)より二・二五ポイントの減、町議選が二、〇四七人の七八・八七%で前回より二・二五ポイントの減となりました。

なお、当日の有権者数二四、〇〇六人のうち、期日前投票者数は二、九四〇人の二〇・九九%で前回より九・三三ポイント増加しました。  
開票は、午後九時から町中央公民館で行われ、選挙管理委員や立会人をはじめ、

大勢の参観人が見守る中、町長選が午後十時二十五分、町議選が十一時四分に終了し、当選者が確定しました。  
選挙結果と新たな町議会議員の顔ぶれは七ページのとおりで。



## 町長選挙結果

(敬称略)

当選	寺尾 豊爾	5,934票
	松原 茂樹	4,737票
	(無効)	377

## 町議会議員一般選挙結果

(敬称略)

当選	梅原 好範	858票
当選	篠塚 信太郎	749票
当選	森田 幸子	680票
当選	岩田 恵一	678票
当選	山田 均	637票
当選	原田 寿賀美	637票
当選	東 まさ子	588票
当選	北尾 潤	567票
当選	野口 久之	540票
当選	横山 勲	539票
当選	山内 武夫	526票
当選	村山 良夫	507票
当選	坂本 美智代	495票
当選	小田 耕治	492票
当選	松村 篤郎	470票
当選	西山 和樹	450票
	今西 孝司	392票
	小山 新也	370票
	石黒 利雄	354票
	藤田 正輝	301票
	上田 實	25票
	(無効)	192



種目別のトロフィーに囲まれながら総合優勝杯と賞状を手にする  
西村さん(左)と山内さん(右)(教育委員会・本庄)

### 京都女性の健康フェスティバル

## 京丹波町婦人会が全種目で入賞し総合優勝

「第二十四回京都女性の健康フェスティバル」(京都府連合婦人会主催)が十一月十五日、木津川市中央体育館で行われ、京丹波町婦人会が六種目中四種目(リレー、大ボール送り、スカイクロス、パズル競技)で優勝、二種目(玉入れ、綱引き)で準優勝の成績を収め、総合優勝の栄誉に輝きました。

教育長への報告に訪れた同会会長の西村恵美子さん(中台)は、「全種目に入賞できてうれしい。来年は優勝杯を逃さないようにがんばるとともに、綱引きでも優勝したい。また、婦人会の結束が賞につながったので、その意気込みを活動につなげていきたい」と話しました。

### 京都府教育委員会から表彰状を贈呈

## 京都府社会教育委員連絡協議会理事などで貢献した白樫さんに表彰状を授与



京都府教育委員会の表彰を受けた白樫さん

このほど、町社会教育委員であり、南丹地区子育て支援協議会顧問として活躍されている白樫貢さん(下乙見)に、京都府教育委員会から表彰状が贈られました。白樫さんは、京都府社会教育委員連絡協議会監事(平成十五—十六年度)、同理事(十七—二十年)、南丹地区社会教育委員連絡協議会会長(十七—二十年)、南丹地区子育て支援協議会会長(十八—二十年)を歴任し、府内の社会教育事業に貢献されてきた功績が認められての受賞です。おめでとうございます。



ゴスペルソングを歌う市岡さん(山村開発センターみずほ・大朴)

### 夢と希望を持ち続ける

## 京丹波町人権講演会

「平成二十一年度京丹波町人権講演会」(町・町教育委員会・町人権啓発推進協議会主催)が十一月二十二日、山村開発センターみずほで開催され、約二百人が参加しました。

講演会では、故岡八朗氏の長女でゴスペル歌手の市岡裕子さんが「人生あきらめたらあかん! たりないものに不平不満を言わず、有るものに感謝」と題した講演とゴスペルコンサートを実施。市岡さんは、母親の自殺や父のアルコール依存症、弟の病死など、さまざまな困難を乗り越えてきた経験を交えて、「長い人生の中では、辛いことや悲しいことなど、さまざまな困難とぶつかることがあるが、夢と希望を持ち続けることで生きる喜びを持ち続けることが大切」と参加者に語りかけました。



よさこい踊りを披露する丹波よさこい連のみなさん(道の駅「和」・坂原)

### 多くの人がわちふれあい祭り

「わちふれあい祭り二〇〇九」(同実行委員会主催)が十一月二十一日、道の駅「和」と道路情報センター一帯で行われました。

開会式では、同実行委員長の山口侑夫さんが「祭りで楽しいひとときを過ごしていただき、明日からの活力にしてください」とあいさつ。その後、寺尾豊爾町長が「多くのみなさんとのふれあいは地域の活性化に欠かせません。町政運営も住民のみなさんとの対話を大切にしながら進めていきます」とあいさつしました。

会場では、和知太鼓の演奏や京都丹波よさこい連による踊り、伝統芸能の定期公演をはじめ、各種団体が出店する「うまいもんコーナー」、「みんなの参加販売コーナー」、地元農産物を販売する「ふれあい朝市」、もちつきの実演・販売、お楽しみ抽選会などが催され、多くの人々にぎわいました。

Dr's Message

# いきいき健康術 第28回

## 『新型インフルエンザに負けないために』

このコーナーは、町立病院診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院長の佐藤秀一郎先生。新型インフルエンザの症状や予防対策などについてのお話です。

今春に、北中米で豚インフルエンザが人に感染し、その後、半年余りで世界中に広がりをもてる「新型インフルエンザ」。新型のため、ほとんどの人に免疫がなく、一定の割合が感染するまで流行の拡大が収まらない可能性があります。十一月中旬までの状況は、国民の十四人に一人が新型インフルエンザで医療機関を受診したと推定され、受診者の千二百人に一人が入院。そして、入院患者の十六人に一人が重症化し、受診者の十四万人に一人が死亡したものと推計されています。

### 重症化を防ぐために

新型インフルエンザの症状は、突然の高熱、せき、のどの痛み、けん怠感に加えて、鼻水・鼻づまり、頭痛などがあり、季節性インフルエンザと類似しています。そのため、タミフルやリレンザなどの治療薬が有効です。また、簡易検査による診断も可能ですので、思い当たる症状がある方は、直ちに医療機関で受診してください。



院長 佐藤 秀一郎先生(京丹波町病院)

### 新型インフルエンザワクチンの接種

新型インフルエンザワクチンの接種は、スケジュールに従って行っています。ワクチン接種に関するスケジュールや費用負担などは、保健福祉課(八六一・八〇〇)までお問い合わせください。自己判断により接種してください。

### 日ごろからの予防に心がけて

予防としては、外出時にマスクをする、帰宅時の手洗いやうがい、室内の加湿保温、発症した人に近づかない(約二メートル)などの対策が大事です。

みなさん、十分な休養と栄養摂取により抵抗力を高め、健やかに過ごしてください。

# 火災の怖さをポスターで表現

## 防火ポスターコンクール

「防火ポスターコンクール」(京都中部広域消防組合主催)の表彰式が十一月六日、三ノ宮小学校体育館で行われ、同組合消防長賞を受賞した同校四年の上田夏鈴さんに表彰状が授与されました。

コンクールは、火遊びや火災の危険性、住宅用火災警報器の大切さをテーマに、本町と南丹市の小学生を対象として行われ、応募総数三百六十九点の中

中から、上田さんの作品が同組合消防長賞に選ばれました。受賞した上田さんは、「火災が起こらないように、天ぷら油に顔を描いて火災の怖さを表現しました。賞がとれてうれしい」と感想を話しました。



表彰を受ける上田さん(三ノ宮小学校・三ノ宮)



上田さんの作品が使用されたポスター

# 子どもたちが描く あつぱれたんぼの風景

## あつぱれたんぼ写生コンテスト

「あつぱれたんぼ写生コンテスト」(府立丹波自然運動公園主催)の表彰状伝達式が十一月十七日、下山小学校体育館で行われ、全校児童が見守る中、町長賞を受賞した同校三年の上原厘奈さんが同公園長の田淵敬治さんから表彰状を授与されました。

コンテストは、「あつぱれたんぼ」を題材に町内の小学生を対象として行われたもので、応募総数六十二点の中から町



町長賞を受賞した上原さん(下山小学校・下山)



入賞した上原さんの作品

長賞などを選考。同校では、町長賞を受賞した上原さんを祝うために、全校児童を集めて表彰状の伝達式を実施。受賞した上原さんは、「絵が好きなので、あつぱれたんぼのカエルをかわいらしく描きました。賞をとることができてうれしい」と感想を話しました。

なお、主な受賞者は次のとおり。

【町長賞】  
上原厘奈(下山小三年)

【教育長賞】  
堀井雪羽(丹波ひかり小一年)

【丹波自然運動公園長賞】  
猪田麗菜(丹波ひかり小一年)

# チームで気持ちをひとつに

## 十人十一脚大会

「第二回十人十一脚大会」(社団法人船井青年会議所主催)が十一月三日、丹波自然運動公園体育館で行われ、本町と南丹市在住の小学生で構成された二十六チームが参加しました。

同大会は、競技を通じて子どもたちに仲間・友情・信頼・思いやりの心の大切さを体感してもらうことを目的に、十人十一脚と五人六脚の二部門で実施。競技方法は、十人十一脚がタイムトライアル方式タイムの優劣によって順位を競う、五人六脚がトーナメント方式で行われ、参加者らはチームで気持ちをひとつにし、優勝を目指して一生懸命走っていました。



ゴール目指して力走する参加者(丹波自然運動公園・曾根)

- 【十人十一脚(七チーム出場)】  
■優勝 ゴンターズ高原A  
■準優勝 園部小学生女子バレーボールクラブ
- 【五人六脚(十九チーム出場)】  
■優勝 フレンズA  
■準優勝 ゴンターズ高原A

# 地域で取り組む火災予防

## 質美小の児童らが高齢者世帯に防火菊鉢を配布

十一月十三日、質美小学校の六年生九人が校区内の一人暮らし高齢者宅を訪問し、町菊の会の会員が丹精込めて育てた菊の鉢植えに火の用心の札を立てた「防火菊鉢」を配布しました。

この取り組みは、火気の取り扱いが増加する時期を迎え、質美小学校と園部消防署丹波出張所、町消防団、民生児童委員が協力して質美地内の七十歳以上の一人暮らし高齢者宅を訪問し、火災予防の啓発を行うもの。児童らは、四班に分かれて計三十一世帯を訪問し、「火の取り扱いには十分注意してください」などと呼びかけながら、防火菊鉢を手渡しました。

また、訪問活動の前には、全校児童二十七人が参加した避難訓練をはじめ、消火器の取り扱いや一〇番の方法など、いざというときに備えた実践訓練を実施。指導にあたった同出張所の畑中克彦所長は、「災害が起こったときはあせらずに、訓練で学んだことを生かして、自分自身を守ってください」と児童らに話しました。



防火菊鉢を手渡す児童(質美地内)

# 町政運営にご尽力いただき

## ありがとうございます

### 松原前町長と上田前副町長が退任

松原茂樹前町長が十一月十九日、任期満了に伴い退任されました。松原前町長は役場前に集まった職員らと握手を交わしながら、「ありがとうございます」とあいさつし、四年間の町長の職務を終えられました。また、上田正前副町長も同日付で退職され、松原前町長と共に副町長の職務を終えられました。



職員らと握手を交わす松原前町長(役場前駐車場・蒲生)



職員らと握手を交わす上田前副町長

## わたしたちの町

人口	16,975(-21)
男	8,037(-5)
女	8,938(-16)
世帯数	6,495(-4)
12月1日現在/( )は前月比	

## 民俗芸能の祭典に 小畑万歳保存会が出演

近畿・東海・北陸ブロック  
民俗芸能大会  
十一月十五日、「第五十一回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会」（同実行委員会主催）が出石永楽館（兵庫県豊岡市）で開催され、京都府代表として小畑万歳保存会が出演しました。

同大会は、十二府県（京都、大阪、富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重、滋賀、兵庫、奈良、和歌山）で伝承されている民俗芸能の理解と認識を深めることを目的に、多くの方が価値の高い民俗芸能を鑑賞する場として、毎年会場を変えて実施。今回は、小畑万歳をはじめ、天野の御田祭（和歌山県）や播州歌舞伎（兵庫県）など、七団体が民俗芸能を披露し、先人から何代にもわたって受け継がれてきた民俗芸能の素晴らしさを観客に伝えていました。

出演した正田哲也さん（小畑）は、「地元の出石や豊岡の話題をふんだんに取り入れたことで、お客さんに喜んでもらえてよかったです。また、機会があれば出演したい」と話しました。小畑万歳は、平成十三年に京都府登録無形民俗文化財の指定を受け、多くの方が鑑賞できるように伝統芸能常設館（坂原）での定期公演をはじめ、さまざまなイベントなどに出演されています。



小畑万歳を披露する保存会のみなさん  
（出石永楽館・兵庫県豊岡市）

## 地域文化と 触れ合う機会

京丹波町文化祭

「平成二十一年度京丹波町文化祭」（町文化協会主催）が、十一月七日の三日間にわたって行われました。

文化祭は、同協会に加盟する団体が日ごろの練習成果を発表する場、丹精込めて作成した作品を披露する場として、ステージの部と展示の部の二部構成で実施。ステージの部は、十一月八日に和知ふれあいセンターで行われ、町内外から三十五団体が出演。ステージでは、和知小学校人形浄瑠璃クラブによる「傾城阿波の鳴門 十郎兵衛住家の段」の発表をはじめ、歌や踊り、ピアノ演奏などが次々と披露され、来場者を楽しませました。



和知人形浄瑠璃を披露する和知小学校の児童ら  
（和知ふれあいセンター・本庄）

## 千七百人のランナーが力走

二〇〇九京都丹波ロードレース

二〇〇九京都丹波ロードレース（船井郡陸上競技協会、府立丹波自然運動公園主催）が十一月三日、同公園を発着点として行われ、町内外から約二千七百人のランナーが参加しました。

同大会は、新設したハーフマラソンをはじめ、既存の三・五・十キロの四コースに分かれて実施。出場選手

らは、木枯らしが吹く肌寒い天候の中、秋色に色づく丹波路の景色を眺めながら、男女別や年代別など計二十七部門（三キロファミリールック）で順位を競いました。また、同公園内では、菊愛好家が丹精込めて育てた「菊花展」や、「口丹波ふるさと特産展うまいもの市」が開催され、ランナーや応援に訪れた多くの人々にぎわいました。



多くのランナーが参加したハーフマラソン  
（丹波自然運動公園・曾根）

## 編集 後記

今年も残すところあとわずかとなりましたが、みなさんいかがお過ごしですか。今年で京丹波町誕生から4年が経過し、広報「京丹波」も取材やインタビューなどご協力いただいた方々をはじめ、ご愛読いただいているみなさんのおかげをもちまして50号まで発行することができました。今後も、より親しみやすい広報紙を目指して努力してまいりますのでご支援とご協力をよろしくお願いたします。ますます寒さ厳しい時期となりますが、体調管理に気を付けて、良いお年をお迎えください。（K）